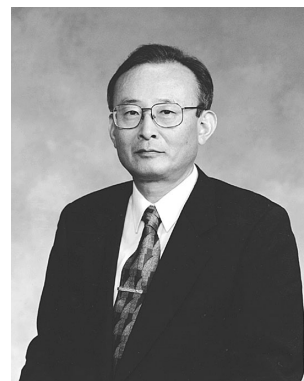


木村尚史先生の逝去を悼む



元日本膜学会会長(昭和63～平成5年会長)木村尚史先生は、令和2年5月21日にご永眠されました。享年85。

先生は、昭和9年6月11日のお生まれで、東京大学工学部応用化学科化学工学コースをご卒業後大学院修士課程、博士課程に進まれ、昭和37年3月博士課程修了後ただちに東京大学工学部助手に採用されました。その後同講師、助教授を経て、昭和53年4月東京大学生産技術研究所教授に就任され、昭和61年12月工学部に配置替えとなり、平成7年3月東京大学大学院工学系研究科を定年退官、東京大学名誉教授になられました。その後、大阪大学大学院基礎工学研究科教授に就任、平成10年3月定年退職され、4月より工学院大学工学部特別専任教授に就任し、平成14年3月定年退職されました。

先生は昭和40年から42年までカナダオタワ国立研究所に留学され、非対称酢酸セルロース逆浸透膜を発明した Sourirajan 博士のもとで研究に従事されました。当時、逆浸透膜は開発後間もなかったことから、定量的な解析方法がないままに膨大な分離実験データが蓄積されていたそうです。先生は専門分野である化学工学の物質移動現象の解析法に基礎を置き、膜の外側の輸送現象と膜内部の輸送現象とに分けて考えることで膜透過現象の定式化に世界で初めて成功されました。この解析法は、現在も広く世界で使用されています。

帰国後、我が国に逆浸透膜技術を紹介し、広く普及に努力された結果、我が国でも膜産業がスタートし、上述の解析法を用いることで高性能な膜の開発が進み、現在では我が国の膜は世界最高の性能を有し、海水淡水化分野では世界シェアの8割近くを占めるに至っています。このような現在の膜産業の隆盛をもたらしたのは先生のご指導によるところが大であり、我が国の膜分離工学の祖として広く尊敬を集めていることは周知のとおりです。先生は、このような逆浸透膜の開発、逆浸透法海水淡水化技術の開発に対する多大な貢献により平成5年には通商産業大臣賞、国際脱塩協会(IDA)会長賞を受賞されています。

先生が膜研究を開始した当時は、膜に関する専門学会はなかったことから、学会の創設にご尽力し、昭和53年には中垣初代会長らと共に日本膜学会を設立、その後会長もお努めになり、我が国の膜学の発展に大きく貢献されました。また、ヨーロッパ膜学会、北米膜学会と連携して国際膜会議の開催を提案され、世界で3年ごとに開催する仕組みを作られ、その第一回(昭和62年)を東京で、第四回(平成8年)を横浜で開催し、実行委員長、組織委員長をお務めになり、成功に導かれました。

先生の膜工学に関する業績は日本海水学会でも評価され、会長を務めるとともに学術賞も受賞しています。また化学工学会学会賞も受賞されています。

大学では膜工学を専門とする学生の育成に力を注ぎ、多くのお弟子さんを育てられ、現在は、研究者、技術者として大学や企業で活躍しています。

私が先生の研究室の一員になったのは卒業論文の時で、1974年のことになります。卒論生は私一人で、私の机は先生の机の隣で、親切に丁寧に指導してくださいました。わからないことばかりでしたので、隣の席という気安さも手伝いなんでも先生に聞いていたら、ついに「中尾君、少しは自分で勉強しなさい」と怒られたことが楽しく思い出されます。

先生からお受けしたご指導はあまりに大きく、感謝の気持ちはとても言葉では表しきれません。先生のご逝去は、我が国はもとより、世界の膜工学研究者にとって大きな悲しみであります。先生のご冥福を心より祈りいたします。

(工学院大学先進工学部 中尾真一)